

新事務所・倉庫に移転

作業性改善 在庫拡充図る



天井も高くなり作業効率が改善

銅・黄銅棒やマグネシウム板を製造する権田金属工業（相模原市中央区、権田源太郎社長）の非鉄製品流通子会社である横浜伸銅は1月、事務所・倉庫を同じ横浜市内で神奈川県から都筑区に移転して営業を始めた。倉庫面積は格段に広がり、天井も高いため大型トラックの乗り入れが可能で、作業効率が大幅に改善。鈴木徳一取締役営業部長は、「在庫拡充を図りユーザーの利便性を高めていきたい」と意気込む。

アクセス良好、面積大幅増

新事務所は第三京浜道路港北インターチェンジから車で2〜3分の場所に位置し、都内や関東近郊だけでなく静岡方面へのアクセスにも優れる。外資系建設機械メーカーが使用していた築3年ほどの倉庫付きの土地を購入し、リフォームした。敷地面積は800平方

新事務所・倉庫の外観



属工業で在庫置き場を一部間借りしていたが、その分も全て新倉庫に移した。今後、最適な在庫の保管方法を模索し、縦置き用のトラックを増やすことなどを考える。

旧来の事務所も横浜駅から車で数分の国道15号線沿いという好立地だったが、設立から半世紀が経過し建物が老朽化。だが商業地域

のため倉庫としての建て替えが必要で、5年ほど前から移転を検討していた。新事務所は高速道路からのアクセスの良さと十分な広さのほか、天井が高く、レインもついていたこと（権田社長）。従来は

大型トラックを路上に停めて荷下ろしする必要があったが、現在は倉庫内まで入れるため作業性と労働環境が大きく改善した。天井クレーンは1基だったのが、さらに1基増設。フォークリフトも新たに導入した。

伸銅品とアルミがそれぞれ35%、ステンレスなどが30%程度となっている。販売先は横浜や東京・大田区に多いが、近年は積極的な営業活動により静岡や東北、一部関西地域でも顧客が増えている。また、販売だけでなく自社で銅・黄銅棒やアルミ板の切断加工も手掛ける。年間売上高は2017年12月期に10億円台を回復し、18年12月期は約11億円と過去最高を更新した。